

## 広報広聴委員会行政視察報告書

### 1 視察期間

令和元年8月26日から8月27日まで 2日間

### 2 視察都市

(1) 滋賀県甲賀市

(2) 愛知県瀬戸市

### 3 参加者

高梨俊弘委員長、小柳貴臣副委員長、加藤文重委員、秋山勝則委員、  
江塚学委員、鈴木正人委員、寺田辰蔵委員

随員 鈴木隆仁主任、寺田聡志主任

### 4 視察事項

(1) 市の概況について (2市)

(2) 議会だよりについて

(3) 若者の政治参加をめざしたプロジェクトについて

### 5 考察

次のとおり

## I 甲賀市 人口 90,762人 面積 481.62 km<sup>2</sup> (令和元年7月末現在)

### 1 議会だよりについて

#### (1) 概要

甲賀市議会では、広報特別委員会として議会だよりの編集を行っている。年間4回の発行、A4サイズの24ページ、全ページカラー刷り、発行部数は、約31,600部。市内新聞折込（自治会加入率が40%と低いため）、公共施設やショッピングセンター等にも配布している。議会だよりの発行にあたり、編集会議を5回ほど開催し、割付作業や原稿の整理、議案質疑の内容について委員が校正を行い、一般質問・代表質問は質問者が原稿を作成することになっている。表紙の写真は、委員が担当し、議員の特技が生かされている。議会だよりの編集も、見やすく若者も手に取りやすく硬すぎないように表紙や内容が工夫されている。広報特別委員会としては、議会だよりの編集専門に委員会活動を行っているので、議会報告会などの広聴については、議会全体で行っている。議会としてタブレットの導入がされているので、タブレットを活用した編集作業が可能になっている点も編集作業の特徴のひとつである。

#### (2) 考察

甲賀市では、議会だよりの編集を事務局の手を借りず広報特別委員会で行っており、議員が相当のエネルギーを使っていると感じた。編集も、見やすく若者も手に取りやすく硬すぎないように表紙や内容が工夫され、高校生モニターの実施内容なども紙面に反映されている点や裏表紙に議員紹介のページがあり、政治が身近に感じさせる工夫がされていると感じた。磐田市においても、タブレットの導入により編集の効率化が図れるのではないかと感じた。磐田市では、広報広聴委員会として広報だけでなく、報告会や意見交換会などの広聴としての機能も果たしており、他市との違い、重要性も再認識した。

甲賀市においては、議会だよりの編集を事務局の手を借りずに委員が行っていることに驚きとともに大変さも感じたが、効果的で効率的な広報広聴活動を進めるために委員と事務局との仕事の分担や連携を強めていく必要性など参考になった。

## II 瀬戸市 人口 129,506 人 面積 111.40 km<sup>2</sup> (令和元年7月末現在)

### 1 若者の政治参加をめざしたプロジェクトについて

#### (1) 概要

瀬戸市では、議会の活動を広く市民に周知を図るとともに、市政に対する市民ニーズを的確に把握することを目的として広報広聴協議会を設置している。協議会は、主に議会だよりの編集を行う広報部会と議会報告会と市民の意見交換会などを行う広報部会に分かれている。

視察の目的である「若者の政治参加を目指したプロジェクト」は広聴部会の取り組みである。瀬戸市では、大学の教職員・学生と地域・社会貢献のための新しい仕組みや文化創造を目的とした新しい文化創造プロジェクトを実施している。大学コンソーシアム瀬戸は、2015年から始まった瀬戸市と近隣大学5校との連携事業である。そうした取り組みのなかで、大学生との意見交換会を何回か開催し、様々な意見や議会への政策提案がなされている。議会では、若者の意見を一般質問で取り上げている。

市民との合同研修会として「市民と議員の合同研修会」を議会基本条例策定後の平成29年4月に開催。議会基本条例制定について市民に知らせることも意図して開催された。

#### (2) 考察

平成29年度に若者の政治参加を目指したプロジェクトを1年間かけて実施されたが、プロジェクトを通じ、若者の意見を一般質問に取り入れている点は評価でき参考になると感じた。そうした活動を通じて若者と議会の距離を縮めている点が参考になったが、大学生は卒業があり取り組みを継続していくには困難があることも感じた。

「市民と議員の合同研修会」が、議会基本条例策定後に1回行っているが、その後は開催していないとのことであった。大変いいことだと思うが続けていくことは大変なのかと思われた。また、市民との意見交換会は、年2回、6月と11月に開催している。

こうした点は市民との意見を交換する場を設けていると感じた。磐田市においても、広報の一つとして合同研修会の開催も可能ではないかと考える。